

山形県観光復興対策実施計画 令和元年度評価調書

都道府県名	山形県	計画に包摂される市町村	県内全市町村(35)				
計画期間	平成28年度～令和2年度	評価責任者	山形県 観光文化スポーツ部 イン・アウトバウンド推進課				
計画の成果目標(定量的指標)		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	備考
指標①	外国人延べ宿泊者数(単位:人)	80,000	100,000	120,000	150,000	180,000	
指標②	外国人旅行消費額(単位:百万円)	5,400	7,800	10,100	12,500	15,000	
指標③							

1 定量的指標に関連する交付金事業の効果の発現状況	山形県の外国人観光客受入延人数の増加 H27:96,847人 ⇒ H28:127,731人 ⇒ H29:190,639人 ⇒ H30:252,289人 ⇒ R1:388,928人【イン・アウトバウンド推進課 調査】					
2 定量的指標の達成状況	指標① 外国人延べ宿泊者数(単位:人)	目標値	150,000	目標値の実現状況に関する評価	これまで行ってきたトップセールスをはじめとする官民一体となった誘客プロモーションが実を結び、平成30年度に本県初となる台湾との国際定期チャーター便の運航が実現したことや、仙台空港や各県等と連携したプロモーション及び受入環境整備等を通じ誘客に努めた結果、宿泊者数の目標を達成した。一方で、東京など大都市圏と比べ数値は小さく全国の0.18%に留まっており、継続したプロモーションによる認知度向上とともに、観光資源の一層の磨き上げや滞在型コンテンツの充実を進めていく必要がある。	
		実績値	184,760			
	指標② 外国人旅行消費額(単位:百万円)	目標値	12,500	目標値の実現状況に関する評価		令和元年の観光消費額が目標に届かなかった要因として、全国的に観光消費額は低下傾向にあることやモノからコトへ消費内容の変化が加速していることが考えられる。今後は、インバウンド再開後に増えると見込まれる、個人旅行や小グループに対応するため、体験コンテンツの高付加価値化やメニューの多様化など、広域的・長期滞在型観光への転換により消費額の向上を図る必要がある。
		実績値	10,474			
	指標③	目標値		目標値の実現状況に関する評価		
		実績値				
3 事業の進捗状況	交付金を活用した各種事業の積極展開により、外国人延べ宿泊者数は1年前倒して目標達成できたものの、令和2年度はコロナ禍により達成できない。					
4 評価方法	自己評価のうえ、山形県国際戦略検証委員会において意見聴取(3月予定)					
5 中間評価の公表方法	指標②の確定及び山形県国際戦略検証委員会での意見聴取後に県ホームページにおいて公表					
6 計画全体の総合評価	本観光復興対策実施計画では、東北観光復興対策交付金を活用したインバウンド向けプロモーション事業と受入環境整備事業、滞在コンテンツ充実強化事業を重点的に実施した。その結果、宿泊者数は1年前倒して目標を達成し、増加する外国人観光客に対して、ニーズに合致し、かつ時宜を得た事業を展開できている。消費額については、宿泊者数の伸びからは一定程度増加できたものの、全国的なモノからコトに消費への流れが変化していることによる単価の低下もあり令和元年の目標達成に至らなかった。計画の最終年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大から、インバウンドは見込めず、目標達成には至らないものの、今後の段階的な往来再開に向け、訪日の際には本県を選んでいただけるよう、継続したプロモーション等が重要となる。					
7 今後の方針等	令和元年度までの本観光復興対策実施計画においては、円滑に事業が進んでおり、目標値の達成に向けて、取り組んでいた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大から、出入国が制限され、その中においても実行できる内容に変更のうえ、事業を進めている。東北観光復興対策交付金を活用し、これまで積み上げた各種コンテンツや整備した環境を活かしながら、ウィズ・ポストコロナ期における事業として、データに基づくマーケティングとプロモーションに取り組んで行く。					